

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあつては名称) 日本ゴア合同会社		住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒108-0075 東京都港区港南1丁目8番15号Wビル14階	
本票作成	部署名：ファシリティチーム				
主たる業種	分類コード	18	業種名：プラスチック製品製造業		
事業の概要	ePTFE関連製品の製造、工場数 2、従業員 711人				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	備前工場		備前市吉永町南方123	
	②	岡山工場		岡山市北区御津河内1102-4	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 2 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

計画期間	令和 6 年度 ~ 令和 10 年度 (5 箇年度)								
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 5.0 %	目標区分	20%以上	20~15%	15~10%	10~5%	5%未満
		<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準						○	
温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 5 年度)			目標年度 (令和 10 年度)					
	21,649 t CO ₂			22,653 t CO ₂					
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		基準年度 (令和 5 年度) の排出量					
	①	備前工場		13,889 t CO ₂					
	②	岡山工場		7,760 t CO ₂					
				t CO ₂					
				t CO ₂					

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 年度売上	原単位当たり排出量	
		基準年度	目標年度
		0.561 kg CO ₂ / (千円)	0.533 kg CO ₂ / (千円)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (令和 5 年度)	達成率 (%)
指標の状況				

【目標削減率設定の基本的な考え方】

岡山県下にある2工場は共に第1種エネルギー管理指定工場に指定され、省エネ法に則りエネルギー原単位の年1%削減を目標に活動を継続させる。今後長年にわたり安定した活動を続けるためには、原単位年1%の削減計画が適切であると考えている。

【目標削減率達成のための推進体制】

環境委員会、省エネ活動 <ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステムにて全社の省エネ目的・目標を作成 ・対応チームが年間目的・目標、実行計画を作成し活動 ・確実な実施のためにエネルギー管理委員会、環境委員会にてフォロー
--

【排出量削減のためのこれまでの主な取組】

工場等の名称	取組内容
備前工場	<ul style="list-style-type: none"> ・高圧トランスの高効率タイプへの更新 ・LPG消費の老朽化空調設備を最新電気ビルマルチタイプへ更新 ・屋外照明機器のLED化
岡山工場	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化照明機器のLED化 ・空調用灯油燃焼冷温水発生器を電気化(2台/4台中)

【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】

工場等の名称	措置内容
備前工場	<ul style="list-style-type: none"> ・クリンルーム運用見直し、最適制御化 (令和6年度) ・工場照明LED化、自動点灯化 (令和7年度) ・エアーコンプレッサー高効率化更新 (令和7年度) ・老朽化空調設備の高効率機器への更新 (令和8年度)
岡山工場	<ul style="list-style-type: none"> ・工場照明LED化、自動点灯化 (令和6年度) ・灯油燃焼冷温水発生器を電気化(最終) (令和7年度) ・灯油燃焼温水ボイラーを電気化 (令和7年度) ・エアーコンプレッサー高効率化更新 (令和8年度)

【森林保全等吸収源対策への取組計画】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入計画】

県内での取組	有	購入電力は令和5年4月より再エネ電気へ全量を切り替え済み その契約を今後も継続・更新する予定
その他	無	

【その他特記事項】

備前工場、岡山工場ともに稼働の状況は維持または増加見込みであるため総エネルギー消費の大幅な削減は困難。 再エネ電気の購入についてはコスト増の影響が大きいと継続する予定。 化石エネルギー使用の燃焼機器を高効率の電気タイプへ更新することで温室効果ガス排出量および消費エネルギーの削減を目指す。
--